

思いを伝え、行動を起こす

岸本 信子

令和元年十一月二日、この日を境に私の人生が一変した。まさかと思っていた胃がんの宣告を受けた。さあ大変。先生のお話から、

のんきな私でも軽い状態ではないと分かった。これまでの七十年近く、健康優良児であった。病気とは無縁の生活を送ってきた。絶対的自信があった胃が悪いなんて。人間ドックを受けとけば良かった。胃と心臓は外していたのだ。なんてことだ。まさか私ごと、悔やみや恨みが次々と湧いてくる。

即入院して、体調を整え、手術することになった。夫や子どもたちに加え、全て任せて入院。急に主婦がいなくなった家は想像に余りある。私の看護に、毎日の食事・洗濯・掃除、地域の当番、老母の世話等々、全てが夫にかかってきた。子どもたち一家がそれぞれの特性を生かし、支えてくれた。弟や妹たちにもいろいろ助けてもらった。職場やボランティア活動の仲間にも多大なご迷惑をかけた。誰もが、自分を第一にという優しい言葉で対応していた。

ありがたかったのが、友人やご近所さんだ。旬の野菜や果物を届けてもらう。中には、タケノコのおく抜き等下処理だけでなく、煮たり焼いたり加工したものをいただく。魚釣りが趣味の友人は、料

理人はだしの南蛮漬けが。遠出をしたのでと珍しいお菓子も届いた。地域の当番も代わっていた。絵手紙仲間も、励ましの言葉をずっと送ってくれた。

これまでの私はどうだったかと振り返ってみる。「大変だろうな」と共感しても、態度で表すことができただろうか。「どうなん」という声掛けができたのだろうか。「否」である。今回の友人やご近所の皆様の温かい励ましや配慮を受け、どんなにうれしかったか。どんなに力づけられたか。いくら心で案じていても、なかなか思いは伝わらない。ある言葉が、ある行動が思いを伝えると実感した。

さて、全米オープンテニス女子シングルスで大坂なおみ選手が優勝した。人種差別への抗議を態度で表し、コート以外でも注目を集めた。スポーツの世界に政治色を持ち込んだと非難されているとも聞く。しかし、彼女が送った強いメッセージは全世界の人々に届いた。私も受け取った一人である。黒人差別は、私には関係ない。私は、暴力を見たり聞いたりしていない。ましてや、黒人差別をしたこともない。本当にそうだろうか。病で、思いを伝える大切さを思い知った私なのに。身の回りには、部落差別、性差別、障がい者への差別等々おかしいと思うことが溢れている。見て見ぬふりをすることなく、感じたことを発信する人になりたい。病に罹ったのは不幸なことだったが、命に限りがあることを謙虚に受け止められた。残った人生を、思いを伝え、行動を起こしながら生きていきたい。